

安全対策工事の実施概要について

現在、リサイクル燃料備蓄センターの安全対策工事を安全第一で進めています。今回は主な工事についてご紹介します。

【貯蔵建屋 (受入れ区域) の天井鉄骨緩衝材^{かんしょうざい}】

想定しうる大きな津波の襲来時に仮に貯蔵建屋が損傷し、建屋の天井鉄骨が落下した時に備え、衝撃を緩和する緩衝材を自主的に設置するための工事です。

天井鉄骨 (大梁) 下部に緩衝材を設置。緩衝材は衝撃を吸収しやすい発泡材を不燃材で覆っています。

【防火帯】

近隣で発生する火災から貯蔵建屋を防護するため、貯蔵建屋周辺にモルタルを吹付け、22m幅の防火帯を設置する工事です。

【高台予備緊急時対策所】

想定しうる大きな津波の襲来時に必要な機材保管等のために高台に通報連絡スペース、倉庫等を新設する工事です。

建設予定地 (海拔約30m)

【軽油貯蔵タンク (地下式)】

電源車 (外部電源喪失時等に使用) に供給する燃料を蓄える軽油貯蔵タンクを設置する工事です。想定しうる大きな津波の襲来時に備え高台に設置します。

建設予定地 (海拔約28m)

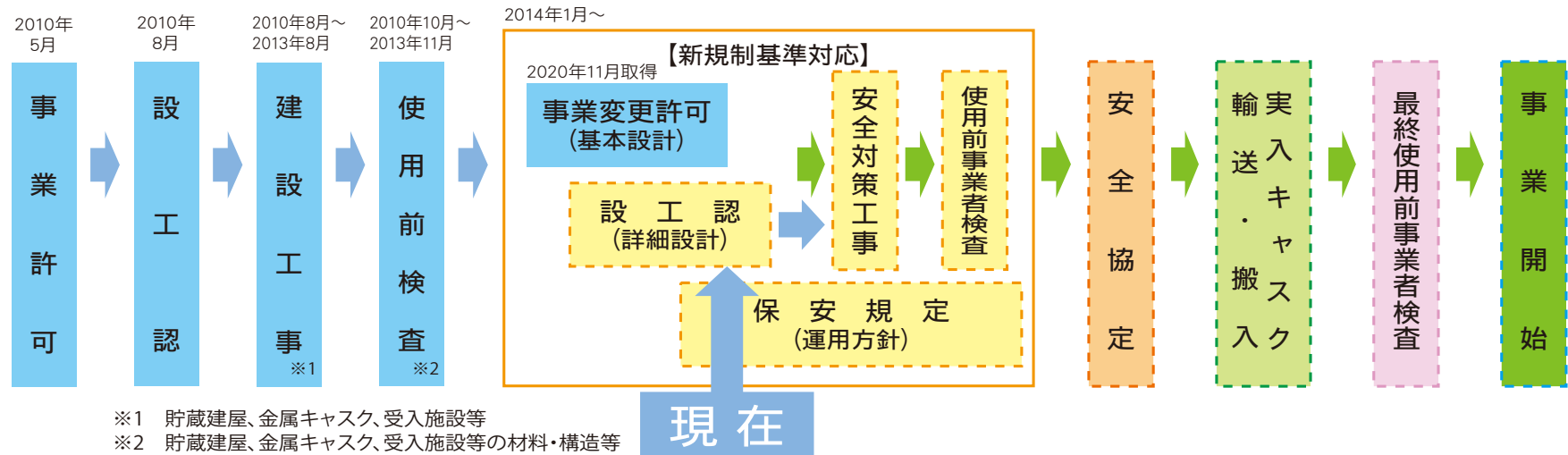
軽油貯蔵タンク配置図

事務建屋
貯蔵建屋
北
リサイクル燃料備蓄センターの敷地図

この他、事業開始に向け設工認^{*}の認可を踏まえた貯蔵建屋の天井クレーン耐震補強工事等に取り組むと共に、既に設置してあるデータ収集装置の取替等の更新工事にも取り組んでいきます。

^{*}設備の設置にあたり具体的な設計や工事 (追加の安全対策工事含む) の内容を示したもの (詳細設計)

【事業開始までの流れ】

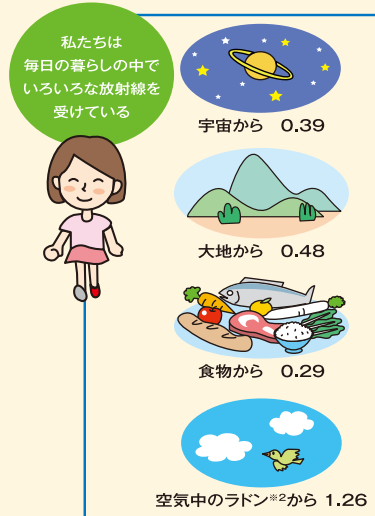


日常生活と放射線

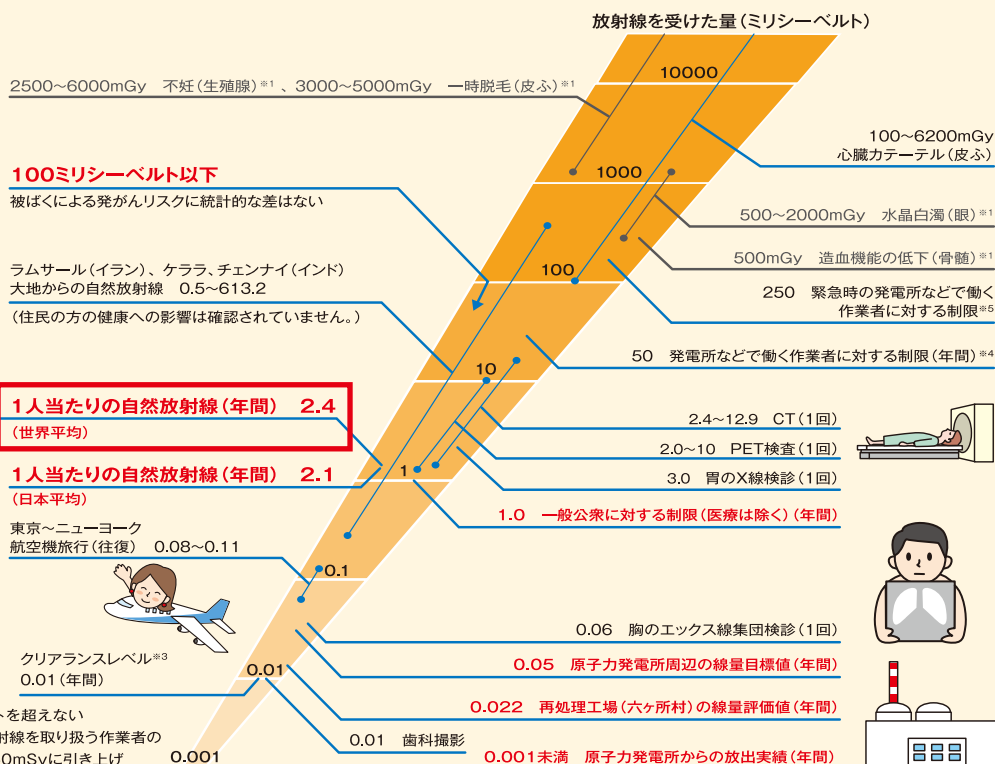
【出典】(一財)原子力文化財団「原子力・エネルギー図面集」より

私たちは毎日の暮らしの中で、自然界から受ける自然放射線や、レントゲン写真、CTスキャン、人工的に作り出した放射線などいろいろな放射線を受けています。

自然放射線には、宇宙、大地等の対外(外部)から受ける放射線、食物摂取や空気中のラドン等の吸入によって体内(内部)から受ける放射線があり、**年間に世界平均で2.4ミリシーベルトの自然放射線を受けています。**



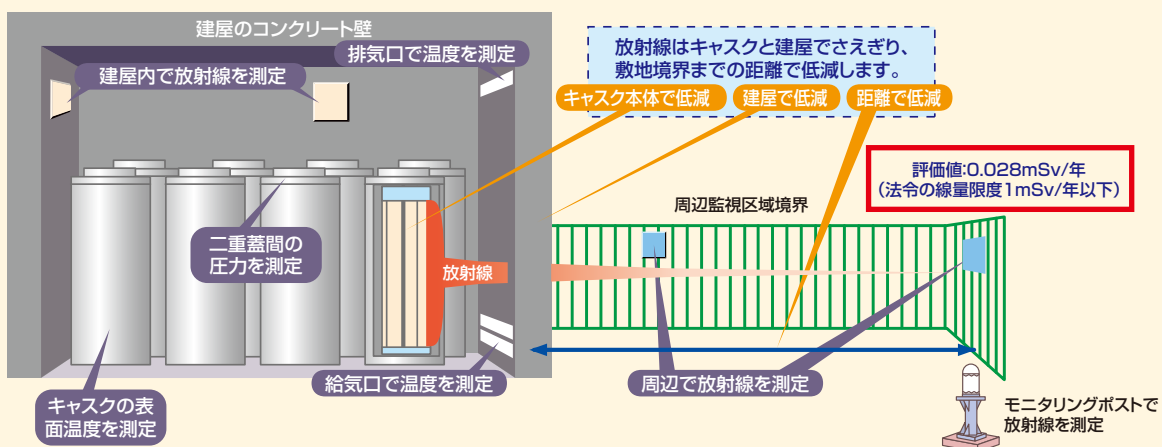
- ※1 放射線障害については、各部位が均等に吸収線量1ミリグレイのガンマ線を全身に受けた場合、実効線量1ミリシーベルトに相当するものとして表記
- ※2 空気中に存在する天然の放射性物質
- ※3 自然界の放射線レベルと比較して十分小さく、安全上放射性物質として扱う必要のない放射線の量
- ※4 発電所などで働く作業員に対する線量は5年につき100ミリシーベルトかつ1年につき50ミリシーベルトを超えない
- ※5 電離放射線障害防止規制等の改正により、緊急時の放射線を取り扱う作業員の緊急作業従事期間中の線量限度を2016年4月より250mSvに引き上げ
- 【表示について】mSvはミリシーベルト、mGyはミリグレイ



リサイクル燃料は、金属キャスクに収納し、堅牢な建物の中に貯蔵されます。貯蔵中は、二重蓋間の圧力、キャスクの表面温度、建屋の吸入空気と排出空気の温度、建屋内および敷地境界線での放射線量を24時間体制で毎日監視します。

リサイクル燃料備蓄センターの敷地境界での年間線量は0.028ミリシーベルトと評価しており、自然界の放射線量と比べ低い値です。

リサイクル燃料備蓄センターの監視体制



EVENT

いろいろなイベントに協賛、参加しています。



イベントについては
こちらQRコード

10/28(土) 花咲か大作戦2021秋の陣
(むつ市桜満開プロジェクト)

桜の木へ施肥を行いました。コロナ禍により昨年は参加することが叶いませんでしたが、今年は参加することが出来て、嬉しかったです。来年、桜花満開を願って!!

11/28(日) 第17回RFS杯
ママさんバレーボール大会

当社主催のママさんバレーボール大会を開催しました。下北地域から多くの参加者がむつマエダアリーナに集まりました。どのチームも全力でプレーを楽しみ、観戦していた私たちも熱くなるような試合でした!



参加チーム: kazamaura、むつファイターズ、リミテッド、大平クラブ、むつクラブ